

ふるさとワイド便



大船渡市へボランティアへ行く中学生たち 鯖江市民活動交流センター

鯖江の3校37人

被災者に元気 中学生が支援

東日本大震災の被災者を励まそうと、鯖江市の中学生らが18日、津波で大きな被害を受けた岩手県大船渡市でボランティア活動を行う。地元の小中学生とも交流する予定で「一緒に流しそうめんなどを楽しんで元気になってもらいたい」と意気込んでいる。(岩崎大樹)

大船渡(岩手)で18日

市PTA連合会が企画した。も学校生活を送っている。校公募で集まった鯖江中11人、中央中6人と、東陽中吹奏楽部20人が訪れる。鯖江ライオンズクラブの会員数人も同行する。

一行は17日に鯖江市を出発。18日に大船渡市の蛸ノ浦小を訪ねる。同校では、校舎が津波で壊滅した赤崎小児童

も学校生活を送っている。校庭には仮設住宅が並び約200人が暮らしている。近くには赤崎中の仮設校舎もある。

仮設住宅で校庭を使えない児童の遊び場所を整備しよう

と、蛸ノ浦小近くの空き地の草刈りを行う。その後、地元の児童生徒や住民と流しそうめん

空き地草刈り スポーツ交流も

やスポーツして交流を深める。鯖江市の花ツツジの植樹も行。東陽中吹奏楽部は演奏を披露し、これまでの出演イベントで集めた募金で買ったキーボードを赤崎中に贈る。

佐野晴香さん(中央中2年)は「福島県に住んでいることが被災し、大変さを聞いた。何か手伝えることがないかと思って応募した」。清水裕太君(鯖江中3年)は「同世代の被災者と交流して友達になりたい」と楽しみにしている。

活動後は各中学で報告会を行う予定。同連合会の岸本直樹会長は「現地で見た体験したりしたことを、鯖江の中学生にしっかり伝えてほしい」と期待を込める。

鯖江市は震災直後に大船渡市で給水活動を行ったのが縁で、支援を続けている。同連合会は昨年8月、鯖江市内の小中高生がメッセージを書いたノート6315冊を大船渡市の全小中学生に贈った。